

特集

福島かるた物語

本市には二つの郷土かるたがあります。「まつうらふるさとかるた」（平成6年3月、松浦市小学校教育研究会社会科研究部制作）と「福島名物いろはかるた」（昭和59年12月、福島町発行）です。

今月号で取り上げるのは、「福島名物いろはかるた」です。福島地区に住んでいる人も、松浦地区、鷹島地区の人にも知ってほしい物語。

さあこれから、「福島名物いろはかるた」にまつわるお話をひもといてみましょう。

いろはかるたの誕生

郷土誌編さん

「福島名物いろはかるた(以下、「いろはかるた」と言う)」ができたそもそものきっかけは、福島町郷土誌の編さん時にさかのぼります。

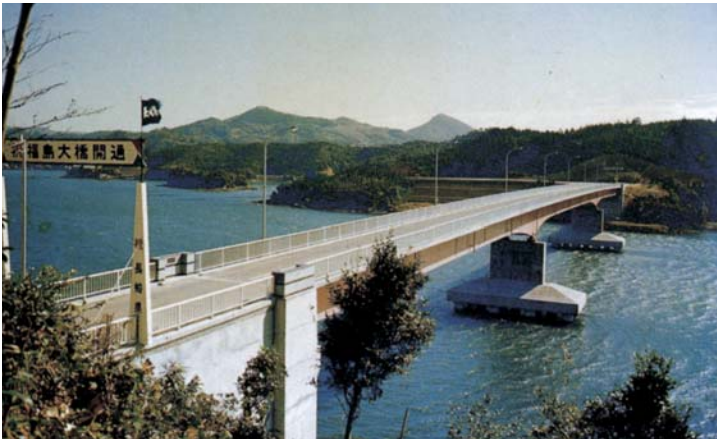
福島大橋が架かった翌年の昭和43年、福島町では大橋架橋記念事業の一つとして福島町郷土誌を編さんすることになりました。

当時の福島町長であった野村昌秋さんを会長とする郷土誌編さん委員会が発足。教育長の緒方憲治さんが中心となって資料の収集、計画を推進しました。昭和47年2月には、熊澤正武さんが委員長となり、その計画を受け継ぎました。

「いろはかるた」のかるたことはを作った小川吉弘さん(福島・播磨釜)は、昭和47年6月、編さん委員兼事務局長となり、昭和49年10月には教育長となりました。

委員会では、郷土誌の編さん過程で多くの資料を収集しました。

名勝、旧跡、歴史、郷土芸能など、その膨大な資料を基に編さんが進められ、その始まりから12年の歳月を経た昭和55年3月、ようやく発刊の時を迎えました。



▶完成直後の福島大橋

観光PR材料として

小川さんは、郷土誌編さん委員として自然編や歴史編、民俗文化編のほか多くの分野の執筆を担当しました。また、校正や編集なども担当し、郷土誌発刊の原動力となつて精力的に取り組みました。

福島町には、長崎県指定文化財5つ、町指定文化財が20ありました(昭和54年12月当時)。小川さんは、こういった史跡や天然記念物などを織り込んでかるたを作れば、福島の観光PRにもなるのではないかと思うようになりしました。

一つの縁

小川さんが教育長時代、福島中学校に坂口寛さん(今福・人柱)が校長として赴任しました。また、坂口さんは、松浦ホトトギス会の会員でもあった関係で小川さんが主宰する福島俳句会にも入りました。

小川さんは俳句の分野などで活躍

し、坂口さんもまた俳句のほか絵画、陶芸、写真などの美術にも優れた才能の持ち主でした。

小川さんは坂口さんに、自分が作ったかるたことはに絵を描いてもらえないかと依頼。二人は意気投合し、かるたづくりの体制が整いました。

昭和54年から始まった「いろはかるた」の作製は、約5年後の昭和59年12月、誕生したのです。



▶「福島名物いろはかるた」は、教育委員会福島分室で販売。

1セット1,000円